講座基本情報	
講座名称	地域の中小企業・産業振興策
講師名	飯盛義徳

講座イメージ	
時間数	約４時間（イントロダクション、ユニット×4、まとめ）
時間割	・イントロダクション ・ユニット１　ファミリービジネスのイノベーション 　地域の伝統的なファミリービジネスの事例から、地域資源としてのファミリービジネスについて考察。地域の産業振興のための大切なポイントを整理する。 ・ユニット２　商店街の再生 　商店街振興のタイプを整理しながら、人が集まり交流する仕組みをつくることで商店街再生を実現している事例を紹介し、ネットワーク組織としての商店街の再生の具体的方策について議論する。 ・ユニット３　伝統産業のイノベーション 　伝統産業の技を用いて新しい市場を創造するためのプロセスについて考察する。 ・ユニット４　産業振興と人材育成 　地域の産業の状況、NPO 鳳雛塾の紹介 　次々と生まれる地域づくり活動 　地域創生の秘訣は効果的なプラットフォーム設計 ・まとめ
試験方法	ユニット毎の確認テスト（択一問題）および、ディスカッションにおける発言数と講義受講
合格判定基準	ユニット毎の確認テストで平均 70%以上の合格及び、講座毎のディスカッション最低発言回数、70%以上の講義視聴状況で評価を行い、講座修了を判定する

講座の特徴及び関連スキル
講座の特徴 本講座は、単に理論やモデルを学ぶだけでなく、最新の取り組みや動向をふんだんに紹介し、実務に奮闘されている方々の実務遂行に役立つ、実践知の創造につながるように十分配慮します。マネジメントの視点から、人や組織のつながりを創出し、協働を実現し、社会的創発をもたらすための効果的なプラットフォームをいかに構築するかを学びます。この視点は、地域の産業振興策をはじめ、企業や非営利組織マネジメントにも貢献できると考えます。また、プラットフォーム設計と関連して、ネットワーク

形成、信頼醸成などについても学びを深めます。さらに、地域における問題発見・解決能力、行動力など、産業振興の際に不可欠な能力も育めるように配慮します。

関連スキル等

　効果的なインキュベーション、効果的なビジネスマッチング・マーケティング、地方創生を担う人材づくり

受講で得られる知識・スキル・コンピタンス
地域において協働を実現し、社会イノベーションをもたらす具体的方策、特に、そのための効果的なプラットフォーム設計の実践知を体得することができます。また、地域産業振興策の立案能力や、事業性と社会性を両立させるためのマネジメントスキル、地域における問題発見・解決能力、積極的行動力を育むことができます。本講座の受講によって、何らかの実践が生まれることを期待しています。

講師紹介
飯盛義徳 慶應義塾大学 SFC 研究所所長 / 総合政策学部教授 兼 政策メディア研究科委員　博士（経営学） 1964 年、佐賀市生まれ。長崎私立青雲高等学校、上智大学 文学部を卒業後、1987 年、松下電器産業(株)入社。富士通(株)出向などを経て、1992 年、慶應義塾大学大学院 経営管理研究科修士課程入学。1994 年、同校修了後、飯盛教材株式会社入社。1997 年、常務取締役。2000 年、佐賀大学 理工学部寄附講座客員助教授。また、アントルプレナー育成スクール「鳳雛塾」を設立。2002 年、慶應義塾大学大学院 経営管理研究科博士課程入学。2005 年、慶應義塾大学 環境情報学部専任講師。2007 年、博士(経営学)。2008 年、同大学総合政策学部准教授、2014 年、同大学総合政策学部教授、現在に至る。 専門は、プラットフォームデザイン、地域イノベーション、ファミリービジネスなど。鳳雛塾は、日経地域情報化大賞 日本経済新聞社賞などの賞を受賞。総務省 過疎問題懇談会委員、総務省 ふるさとづくり懇談会委員、総務省 人材力活性化研究会座長、国土交通省 奄美群島振興開発審議会委員などを務める。 「地域にふさわしいアントルプレナー育成モデルを目指して」(日本ベンチャー学会)、「地域情報化プロジェクトにおける事業創造のマネジメント」(情報社会学会)、「ファミリービジネス教育の可能性と課題 -慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの実践を通して-」(ファミリービジネス学会)、など論文多数。 主著に『「元気村」はこう創る』(日本経済新聞出版社、2007 年)、『ケース・ブック IV 社会イノベータ』(慶應義塾大学出版会、2009 年)、『小学生のためのキャリア教育実践マニュアル』(慶應義塾大学出版会、2011 年)、『慶應 SFC の起業家たち』（慶應義塾大学出版会、2013 年）、『地域づくりのプラットフォーム』(学芸出版社、2015 年)ほか。(2016 年 04 月現在)